

◆◆◆◆◆ 地域おこし協力隊活動レポート ◆◆◆◆◆

地域おこし協力隊とは、大都市圏に住んでいた方が、地方に移住し、地域の活性化を図るとともにその地での自立定住を目指す取り組みです。協力隊員の紹介、活動内容等をご紹介します。

vol.16 (担当) 暮林 まどかさん

早いものでもう今年も折り返し！私の上半期は、美味しいものをいっぱい味わいながら、長瀬町の魅力を再発見した日々でした。

女性起業家の先輩、宝登の会

桜と松を守る会や、山歩きで一緒にさせてもらっているおかあさんたちから、おまんじゅう作りを教わりました。小豆から作るあんこや、ふっくら蒸しあがるおまんじゅうに大感激。自分の手に馴染むまで、何度も教わり作りたいたいなあと思っています。そして大好きな草刈りでは毎回お手製のお茶請けにわくわく。春は作業終わりにみなさんと一緒に弁当を広げ、とっても楽しかったです。



食の輪を作る、Torocolo (トロコロ)

猟友会のみなさんには、罟を仕掛けたり鹿を捌くところを見せて頂きました。捌きたての鹿肉の美味しさに感激！命を戴くということ、里山を守ることの大切さを実感。貴重な経験でした。

そして…トロコロで仲良くさせて頂いているみなさんと今年も桜の下でお花見ができました。この3年間でわくわくの連続で、協力隊が終わっても長瀬町に定住したいと思えたのは、みなさんと出会えたからです。

協力隊最後の夏も、「美味しい！」をいっぱい発見したいと思います。



今月のいいとこ長瀬

「長瀬町の ^{はぐれ}井戸破崩新道から見える景観 がスキ！」

この新道に立つと、眼下に広大な岩畳、その遠方に宝登山が同時に見え、素晴らしい景観を堪能することができます。(S・Mさん)

「編集者コメント」

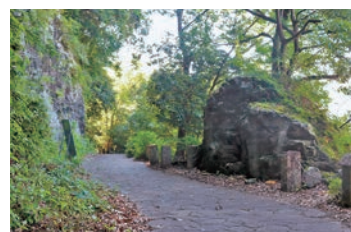
井戸破崩新道は井戸の秩父赤壁中腹に明治期に開削した新道であり、現在は、長瀬自然の道とよばれています。

かつては、井戸村(長瀬町井戸)と下田野村(皆野町下田野)とを往来するために、険しい山道や井戸破崩峠を越える必要がありましたが、名前に破崩(崩れやすく危険な場所)という文字が含まれていることも分かるように、当地は交通の難所であり、よく断崖絶壁から人や馬が落ちたといわれます。

この対策のため、明治14年に井戸の持田鹿之助によりこの新道が提案され、各方面に工費として800円の寄付を募り、開削が始まりました。秩父赤壁の硬い岩盤を開削する難工事であるため、佐渡金山の穴掘り職人も呼び寄せられ、地元民を含めた総人夫3,000人が工事に携わりました。明治16年12月に完成し、翌17年5月25日に開通祝賀会が盛大に執り行われ、春日神社境内には「破崩新道記」と題した井戸破崩開削の碑が建立されています。

地元の方々の悲願であったこの新道。当時の人々の苦労や、完成した時の喜びに思いを馳せながら、散策してみたいはかがででしょうか。なお、この新道から数m先は断崖絶壁になるため、ご注意ください。

いつもとは違う岩畳が見られるスポットがあるのは、長瀬町のいいとこ！



井戸破崩新道(長瀬自然の道)



井戸破崩開削の碑